

子ども第三の居場所「ウエルキャン」 2023年度事業報告書

NPO法人いちほら市民活動協議会



NPO法人いちはら市民活動協議会について

市原市における市民活動の中間支援団体です

- ・市内で活動する市民活動団体が協力し2020年に設立
- ・地域のハブとなり、様々な団体同士の連携・協働を生み出すことで、社会課題解決や地域の発展を目指している

■ 市民活動拠点「ウエルコミ」の管理・運営(2021年～)

市原市より「企業と連携した市民活動促進事業」業務を受託し

ウエルシア・コミュニケーションセンターいちはら(ウエルコミ)の運営を開始

■ 子ども第三の居場所「ウエルキャン」(2023年～)

公益財団法人日本財団「子ども第三の居場所」助成を受け、子どもの居場所事業**「ウエルキャン」**をウエルコミにて開始(「子ども第三の居場所」採択は市原市初。千葉県内4か所目)

■ シンポジウム「市民の力で子どもの命を守る」(2020年～)

児童虐待・子育て(2020年)、**不登校・経済的困窮・外国人教育**(2021年)、**コミュニティスクール**(2023年)など、子どもにまつわる様々なテーマを設定し市民向けに開催

■ 市民活動フェア「グランパ・フェスタinいちはら」(2023年～)

市内で活動する約30団体が一堂に会し、ブース出展や活動紹介を実施主に「65歳以上の男性(=グランパ)」に特化した市民活動フェア



ウエルシア・コミュニケーションセンターいちはら

日本初の市民活動拠点として2021年10月オープン



開館日 : 火～日曜日 9～18時(月曜休館)

定員 : 多目的室…60名×2室

会議室…15名

利用料 : 200円/時間(ラウンジは無料)



ウエルコミの特徴

○日本初！ウエルシアと自治体が連携して開設された市民活動拠点

毎月約2,000人が利用、230団体以上の市民活動団体が登録

○市民や市民活動団体、企業、行政など、多様な主体が協働し様々な活動が誕生

市原くるるの会(ウエルシア) / コーヒーの淹れ方講座(味の素AGF) / スマホ体験講座(ソフトバンク)

SPRING MARCHE(子育て中のハンドメイド作家同士が協働し、販売会と入園時に必要な布製品のオーダー会等を開催)

市原くるるの会



スマホ体験講座



ハンドメイドマルシェ



ウエルコミの特徴

○市内初！日本財団「子ども第三の居場所」助成による「ウエルキャン」始動

コンセプトは「**well-beingなみんなのキャンパス**」

毎週水～金曜日、ラウンジを開放し実施(スタッフ:5名、高校生や大学生のボランティアも受け入れ)

日中:主に学校に行けない・行かない選択をした子ども 夕方:学校帰りの子ども

市民活動団体が“講師”となり、子どもも大人も一緒に過ごせる居場所をつくる

○市内で「居場所づくり」に取り組む団体がつながり、活動を活性化

15団体が協働し実施した「**子どもの居場所フェスタinいちほら**」には、約80名が参加

冊子「子どもの居場所ガイド」を発行し、より多くの子どもや保護者へ情報を発信

ウエルキャン



大学生ボランティア受け入れ



子どもの居場所フェスタ



ウエルコミの特徴

世代や立場を超えて、気軽に集える場

高齢者(多目的室 利用者)

市民活動団体(子ども食堂 運営者)



親子(子どもの居場所 利用者)

「市民活動」を軸に、多世代がつながるきっかけに

子どもの居場所事業「ウエルキャン」

Supported by  日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

「ウエルキャン」は、学校以外の学びや体験を求める子どもたちが集まる「子どもの居場所」です。

<well-beingなみんなのキャンパス>をコンセプトに、子どもだけではなく、保護者や地域の方、市民活動団体など、みんなのしあわせを生み出すことを大切にしています。

■運営体制

事業主体：NPO法人いちほら市民活動協議会 助成：公益財団法人日本財団(助成期間：2025年度まで)

■実施日時

毎週水～金曜日 11時～17時 ※出入り自由

■対象 ※主に小・中学生

- ①様々な事情で学校に行けない、もしくは行かない選択をした子どもたち
- ②放課後に居場所を求める子どもたち

■特徴

01

自由な居場所

一人で好きなことをして過ごすことも、誰かと一緒に新しいことに挑戦することもできます。もちろん、**何もしないで、ただただ居るだけでも大丈夫。どう過ごすかを一緒に考えます。**

02

交流と体験

ウエルキャンには世代や立場を越えてさまざまな仲間が集まります。**他者を理解することはコミュニケーションの第一歩**です。また、さまざまな**市民活動団体と一緒に学校や家ではできないような体験にも挑戦**します。

03

みんなでつくる

みんなで話し合い、アイデアを出しながら、より良い場所や企画をつくっていくことを大切にしています。自信がなくても大丈夫。**やりたいことを受け止め、支えてくれる仲間がウエルキャンにはいます。**

子どもの居場所事業「ウエルキャン」

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

■利用までの流れ

<日中の子ども(不登校等)>

①問合せ(メールor電話) → ②見学・説明、「仮登録用紙」提出 → 仮登録期間(4回) → ③面談後「本登録用紙」提出 → 利用開始

<放課後の子ども>

①スタッフに声掛け → ②名札作成 → 利用開始

■名札

写真や動画等への映り込みの可否を、名札の色で判別しています

青 : 写り込みOK

黄色: 写り込みNG(顔にボカシを入れたり、後ろから撮影するなど)

■出席扱いについて

日中の子ども(学校に行けない・行かない選択をした子ども)は、本人及び保護者が希望する場合にはウエルキャンへの参加状況を専用用紙に記入(日時や活動内容など)

学期末等に所属校へ提出することで、出席として認定頂いています

■スタッフ

コーディネーター 小倉・峯川 スタッフ:3名 大学生アルバイト:2名

■利用人数

<日中の子ども> 約15名

<放課後の子ども> 平均5~15名程度

「ウエルキャン」実施状況

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

■普段の過ごし方

おしゃべり ボードゲームで遊ぶ 読書 ゲーム など

■定例のイベントなど

わくわくタイム(理科の実験教室、ものづくりなど) <第2金曜夕方>

英語体験会 <第3金曜夕方:>

母ヨガ <第1・第3金曜10時~>

学習タイム(学習支援) <第2・第4木曜14時~>

学習相談会(学習支援) <木曜11時~、月2回不定期>

お弁当の配布(生活支援) <金曜12時~、月2回不定期>

■子どもの「やってみたい」を形にする体験を子どもと一緒に企画・実施

・室内野球大会

→ウエルコミで出た古いチラシなどを丸めてグローブなどを制作

子どもたちと話し合いながら考え、実践しました

・かき氷づくり グラデーションドリンクづくり

・マルシェ出店

・ゲーム大会

→子どもたちがウエルコミに団体登録し部屋を利用

・三色パステルアート体験

・高校生や大学生、地域住民によるボランティアの参画



「ウエルキャン」実施状況

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

定例イベント



ヨガ



学習相談会



わくわくタイム



ハピシェアランチ
(給食スタイルのランチ会)

不定期企画



パステルアート体験



ボッチャ体験



アロマ体験



クリスマスの飾りつけ

「ウエルキャン」実施状況

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

2023年度の主な取り組み



マイクラフトワークショップ



ライフスキル教育サポートプログラムの受講



東京医療保健大学の「ボランティア論」実習の受け入れ



クリスマスパーティー

イベント「ウエルキャン・オンライン」

不登校や行き渋りなど様々な事情により学校にいけない、行かない選択をしている子どもたちや保護者の孤立や孤独化を防ぐことを目的に、市内の様々な子ども居場所や関連する取り組みを紹介するイベント「ウエルキャン・オンライン」を開催しています。企画・運営にあたっては、市内の様々な団体等と連携。自宅から出にくい子どもや保護者向けに生配信も実施。会場の一角には、子ども向けの個室ブースも設けました。ラウンジでは、不登校等の当事者の子どもや保護者によるハンドメイド作品等の展示・販売等も行なわれました。

■第1回(2023年2月11日(土)13時30分~16時)

市原市教育センターによる「フレンド市原」の紹介や、千葉市でフリースクールを開校している団体による講演、不登校の子どもを持つ当事者や支援者によるクロストークのほか、市内で不登校の子どもや保護者を支援する市民活動団体等の取組みの紹介や参加者同士の交流などを実施。

<登壇・参加団体(順不同・敬称略)>

NPO法人こころね(フリースクール運営など@千葉市)、ひゅっげ市原(フリースクール運営)、カスミソウ(保護者や子どもの支援・繋がりづくり等)、NPO法人ゆう(福祉ハウス「ふわふわ」運営)、Tsunagu(保護者の繋がりづくり等)

■第2回(2023年6月25日(日)13時~16時)

「ウエルキャン」の開所式として実施。「ウエルキャン」の事業紹介の後、市内で子どもの居場所づくりに取り組む団体の皆さんによるクロストーク、当事者の保護者による座談会、そして市原市長や日本財団担当者らによるパネルディスカッションが行われました。当日は、チバテレビや読売新聞、市原ケーブルテレビなど、様々なメディアにも取材していただきました。

<登壇・参加団体(順不同・敬称略)>

まなび舎こすもす(学習支援)、calm(地域の自治会館での放課後の居場所づくり)

■第3回を「子どもの居場所フェスタ」として、2024年3月31日に開催



イベント「子どもの居場所フェスタ inいちはら」

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

市原市内で「子どもの居場所づくり」に取り組む市民活動団体等が一堂に集結し、それぞれの団体の活動紹介や参加者同士の意見交換・交流を図るイベントを実施しました。4団体による活動紹介や、参加者同士の座談会「おちゃコミ」等を実施したほか、会場内にはいくつかのブースを設け、参加者は自由に各ブースを回りながら楽しんでいただきました。

<開催概要>

日時:2024年3月31日(日)13時~17時 会場:ウエルシア・コミュニケーションセンターいちはら

来場者数:約80名(オンライン視聴者数:約10名) 主催:NPO法人いちはら市民活動協議会 後援:市原市、市原市教育委員会

<参加団体(順不同・敬称略)>

We are Buddies、おやこ食堂もぐもぐ、ごい商店、ひだまり×ごい商店、NPO法人ゆう ふわふわ、放課後calm、カスミソウ~自由登校を見守る会~、つぼみ~咲かせよう自分だけの花~、ASOBIBAあらいぐま、みんなの居場所Laulele、みんなの寺カフェ西光寺、つなぐTsunagu、教育支援教室 フレンド市原、まなび舎こすもす、ウエルキャン



居場所写真展「みつけいちはら」



相談ブース
(カスミソウ運営)



おちゃコミ(座談会)



書籍コーナー

市原での「子どもの居場所」拡大へ向けて

「子どもの居場所情報コーナー」の設置

市内の情報を集約し保護者へ届けたい

市原市内の様々な「子どもの居場所」情報をまとめた情報コーナーをウエルコミ内に設置。



「子どもの学び・居場所ネットワークいちはら」の設立

市原で活動する団体同士が連携し、子どもや保護者をサポート

市原市内で子どもの居場所づくりに取り組む市民活動団体やフリースクール等と協働し、情報交換や行政への働きかけ等における連携などを目的として「子どもの学び・居場所ネットワークいちはら」を2023年春に設立。

関係する団体の情報は、市内での活動をまとめた「いちはら子どもの居場所ガイド」にも掲載した。

